（様式4）　　令和　2　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1290700036		
法人名	有限会社　銀河		
事業所名	グループホーム　銀河黒生		
所在地	千葉県銚子市黒生町7249－3		
自己評価作成日	令和3年5月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	令和3年5月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

◎利用者様が輝き、その輝きで職員も輝き、共に生き生きと生活できるように努めてまいります。
◎特別浴槽を設置し、介護が重度になっても利用して頂けます。
◎リラクゼーション機器（ホットパック、電気治療器、ウォーターベッド等）を豊富に設置し、心身共に穏やかに過ごせるよう支援します。
◎看護師を配置する事により、日々の身体状況の把握はもちろん急変時に対応でき看取りまでの支援を提供できます。
◎地域の医療と連携を図り、適時往診診療や医療的処置も提供できます。
◎利用者様が住み慣れた地域で笑顔あふれる毎日を送れるよう温かい言葉で接し、信頼関係を築けるよう努力します。
◎経営理念の「尊び　寄り添い　響き合い」にある様に利用者様に寄り添って支援していきます。
◎社名のように小さい星がたくさん集まり綺麗に輝く銀河を目指して一同全力で尽くしていく所存です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「グループホーム 銀河黒生」は、小規模多機能施設が併設されていると共に、同法人運営の「グループホーム銀河橋本」も近隣にあり、合同行事等で交流機会が確保されており、馴染み関係継続及び生活活性化に繋がっている。地域交流が盛んに行っており、町内会への加入・地域行事の参加・近隣商店の利用等、日頃の地域との関りが、施設活動の理解浸透に繋がっている。また、法人が運営するふれあい交流サロンやオレンジカフェの開催等を通じて、地域住民との関りを深めている。しかし、昨年の3月からは、新型コロナウイルス感染対策の為、地域との交流や地域行事の参加は中止している。医療面では、非常勤看護師による健康管理・服薬管理・医療面おける相談や対応等も行われており、入居者・家族・職員等の不安解消に繋がっている。計画に基づいた人材育成も行われており、内部研修の実施や職員の希望する外部研修参加の機会も確保されている。また、施設内に11の委員会が設けられており、全職員がいずれかの委員会に所属し運営に関わる等、職員がやりがいが持てるような職場環境も整備されている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の意義を踏まえ日々利用者様に寄り添い共感し合っている。玄関には理念を掲げて、行事毎に復唱し共有している。	「尊び、寄り添い、響き合い」と言う施設独自の理念を掲げ、施設内に掲示しており、理念を意識したケアの実践に取り組んでいる。また、勉強会や会議等で、理念や方針の確認を行っていると共に、唱和を通して全職員で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にあり、小学校より招待されたり子供たちが訪問することも控えているが近隣の理髪店からの出張散髪はお願いしている。	町内会への加入・地域行事の参加・近隣商店の利用等、日頃から地域とは積極的に交流を行い、施設活動の理解浸透に努めている。法人が地域貢献に力を入れており、ふれあい交流サロンやオレンジカフェの開催等、様々な活動を通して地域との触れ合う機会も多い。しかし、昨年の３月からは、新型コロナウイルス感染対策の為、地域との交流や地域行事の参加は中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェ・ふれあい交流サロン等地域の人々に広め、支援の理解を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動の様子を写真や文章で報告し、運営委員やご家族代表者に参加していただきご意見を伺いケアの向上に役立っている。現在は書面での開催となっている。	運営推進会議は地域包括支援センター職員・民生委員・地域住民・入居者・家族等が出席し、年6回開催している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行い、施設の理解促進及びサービスの質の向上に繋げている。昨年度は、１１月のみ会議を開催しているが、それ以外は新型コロナウイルス感染対策の為、会議は構成員と書面による意見交換を行い、議事録を配布する形で実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例を受け入れ、地域包括支援センターの方のアドバイスを受けている。	市とは日頃から業務全般における相談や情報交換を行うと共に、市職員が運営推進会議に出席する等、連携が図られている。その他、市との防災協定を締結している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、会議において常に確認をとり、共通認識を持っている。身体拘束廃止研修に参加している。	身体拘束排除における施設方針やマニュアルを整備し、施設内に掲示すると共に、内部・外部の研修も実施されており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。また、身体拘束廃止に関する指針の整備や委員会の定期開催により、身体拘束の無い支援の実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、学んでいる。他職員へも研修内容を報告し勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を活用されていた方がいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては文書により親切丁寧に説明を行い、質問に対しても納得の得られるまで時間をかけて理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見・要望が直接あり、意見に対し迅速に対応し、苦情委員会にてその都度対策を考えている。	家族の訪問時・電話連絡時・運営推進会議・家族会等を活用し、直接意見・要望等を確認すると共に、施設での様子を写真集にまとめ、家族の面会時に閲覧してもらう等、信頼関係構築に努めている。また、挙がった意見・要望等においては、会議や連絡ノート等を活用して、職員間で周知・検討の上、適切な改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月リーダー会議、全体会議を開催し、運営に関する意見交換を行ってる。そこでの決定事項は常に運営に反映されている。	定期的に会議・カンファレンスを開催し、職員からの意見・提案を確認している。また、複数の委員会が組織されており、各職員がいずれかの委員会に所属することにより、意見や思いが運営に反映する仕組みが整備されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションを密にし、定期的に面接を実施、給与や労働時間など含め仕事上の相談に乗っている。自主性を尊重したやりがい作りのサポートを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人に対する研修プログラムの実施、リーダーが各自の介護技術のチェックを行い、指導にあたっている。各自のレベルに合った外部研修への参加。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネには地域ケアマネ部会に参加させている。他に地域包括支援センター主催の各種集まりには積極的に参加するように奨励している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションをとり安心して頂くよう努め、馴染みの関係を築く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	納得のいくよう話し合い、要望等を聞く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の家族・本人の言葉の中から「その時」今、何を必要としているか相手の身になって支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族と思い、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。共に響き合う理念を大切にする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在コロナ禍にあり、電話連絡などを密にし、一緒に支え信頼関係を深めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会ができない今、ドライブなどで済んでいた町へ訪れている。	友人・知人・家族等の来訪を随時受け付けると共に、希望に応じて、手紙や電話のやり取りも支援しており、馴染みの人との関係継続に配慮している。また、併設の小規模多機能施設の利用者や同法人運営のグループホームとの交流機会の確保や近隣の理容室や美容室の利用を通して、地域との関係を大切にしている。しかし、昨年の3月からは、新型コロナウイルス感染対策の為、家族等との関係継続については、窓越し面会で対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが話せるような場をつくり、過ごしてきた人生を把握して話題作りを工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した方には病院または家族に連絡を取りその方の状態、状況を把握するようにしている。そしてその後の生活を支える為の相談やアドバイスを行っている。介護保険の更新時は申請代行や調査時の立ち合いを行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で一人一人が何を望んでいるのかを見出し、認知症が進行し自分の思いが表せない方には代弁する。	入所前に本人・家族から意向・生活歴・身体状況を確認すると共に、医療機関や他のサービス事業所から情報を把握している。また、日頃から家族との信頼関係を大切にし、意見・意向・情報等を得られるよう心掛けている。新たな情報については、会議や記録で周知しており、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日のコミュニケーションやご家族との連携のなかに見出せ、把握できることがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を共に暮らす中で発する言葉や言動、心身状態と日常生活の中でその方の有する力を把握している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りなどを通しカンファレンス、モニタリングにて意見を出し合いながら見直しを行っている。	本人・家族の意向を確認しながら、会議で検討し、介護計画を作成している。また、モニタリング及びカンファレンスは毎月実施し、必要に応じて介護計画の見直しを図っており、入居者一人ひとりの現状に即した介護計画に基づく支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かく記録申し送りをして職員間での共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	迅速な対応と柔軟な支援にてその時々に最適な支援を実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様ごとの生活を支えている地域資源を把握し、心身の力を発揮し、いきいきと暮らせるための方法を考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿った主治医との関係づくりに努力しその方の病状を把握し、受診時には情報提供が出来るようにしている。	協力病院の他に希望のかかりつけ医への受診が可能となっている。定期的に内科医師の往診が実施されており、適切な医療支援が行われている。また、看護師による健康管理・服薬管理・医療面おける相談や対応等も行っており、入居者及び家族の安心に繋がっている。提携病院とは、緊急時・急変時に24時間体制で協力が得られるようになっており、状態変化に応じて迅速かつ適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化にも見逃すことなく、看護師に相談している。受診の調整など看護師が中心となり介護職と連携し協働できている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療連携室の方と密に連絡を取り合い、経過報告を受けたり退院日時の調整などスムーズに行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期のあり方においては、ご家族とも十分に話し合い事業所の特性もよく理解していただいた上で方針を共有できている。	重度化・終末期における施設方針を明文化すると共に、契約時に家族に説明し、延命希望同意書も交わしている。重度化・終末期においては、全職員が入居者・家族の意向を確認しながら、安心で納得の得られる支援方法の検討・統一に取り組んでいる。日頃から提携病院の医師や関係機関等と連携を図り、その時々の状況の変化やニーズに応じて適切な支援が行えるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て救急講習、応急手当の訓練を行っている。AEDの使用方法も適時学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練により、日中と夜間を想定した訓練を繰り返し実施している。	施設全体で年2回の消防避難訓練を実施している。訓練では、消防署立会い訓練・夜間想定訓練等を実施し、状況に応じた避難方法の確認を行っている。また、市とは防災協定を締結しており、災害時の支援体制の連携が図られている。しかし、昨年度は、新型コロナウイルス感染対策の為、消防署立会い訓練や自主訓練は中止している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人格を尊重し、利用者様同士の会話の中にもプライバシーを損ねないよう注意して声掛けをしている。トイレ誘導時などもプライバシーの保護に注意している。	プライバシーの保護に関するマニュアルの整備や研修が実施されており、プライバシーに対する意義や理解を全職員が共有している。個人情報については、個人ファイルの取扱目的・保管場所・写真掲載の承認等、個人情報に配慮した対応に努めると共に、研修や会議等で周知・徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをよく取り傾聴を心掛け受け入れる姿勢で自己決定へと促し本人主体の生活を送っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを把握し、体調や精神面の様子観察を行い利用者様の生活リズムが一日を通してゆっくり過ぎていくよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族から頼まれ、洋服などを購入することがあり、おしゃれができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人が有する能力に応じた役割を持てるように支援をする。テーブル拭きや片付け等、職員とコミュニケーションを図りながら行っている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から後片付けまで共同で行なっている。調理専門職員を配置し、入居者の希望・身体状況・嗜好・旬の食材を取り入れる等、状況に応じた食事提供が行われている。定期的に行事食・誕生会等を企画・実施し、一人ひとりの嗜好や身体状況に配慮しながら、調理方法・盛り付け・提供方法等に工夫を凝らし、食に対する様々な楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を把握し、記録している。一人一人の状態に合わせ、きざみ・ペースト食を用意している。水分はお茶の時間を一日に何回か設けたり、浄水器からも自分で飲めるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを必ず行っている。義歯の洗浄も行っている。一人一人に職員が必ず対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見てトイレへと促している。一人一人の排泄パターンをつかむ。ご自身からトイレへ行けるような習慣づけをし排泄の自立へ向けた支援を行っている。	排泄チェックリストを活用しながら、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めると共に、適切な声掛け・トイレ誘導を行う等、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、水分チェック表の活用・献立・運動・散歩・医師や薬剤師との連携等、適切な排泄習慣の確保にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫として、乳製品を多く摂取していただいている。レクリエーションにての適度な運動の機会を確保している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気の合った人同士の入浴も行っている。コミュニケーションをとり楽しい入浴をして頂いている。	入浴においては入浴日が決まっているが、一人ひとりの希望や体調等に応じて柔軟に支援をしている。また、必要に応じて、足浴・清拭等を実施し、清潔保持に努めている。必要に応じて併設の小規模多機能ホーム銀河の機械浴槽を利用する等、一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。季節に応じて菖蒲湯や柚子湯等を実施しており、入浴の楽しみを支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に様子観察をし、体調に合わせ臥床していただく。入浴後等にも休憩をとっていただく。食後の休憩はそれぞれの希望にて休んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の服薬の内容が書かれたものを見やすいところにファイルしている。病状に変化が見られる時は介護職から看護師に報告している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手作業として、ぬり絵・雑巾縫い・料理の下ごしらえ等をしていただいている。ドライブは定期的に行い、外食も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとのドライブに出かけている。ご家族とお墓参りや食事に外出される方もいる。グループで大型百貨店にも買い物へ出かける機会もある。	入居者の希望・体調・天気等に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出支援が行われている。レクリエーション委員会が外出行事の企画・実施や家族の参加も促し、外出がより楽しめるよう取り組んでいる。しかし、昨年度は、新型コロナウイルス感染対策の為、ドライブや敷地内での散歩や活動により、外での楽しみを支援している。また、節分・ひな祭り・夏祭り・敬老会・クリスマス・誕生会等、施設内でのレクリエーションの充実を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出、特に買い物に出掛ける際は、お金を持って支払い等をしていただき、それを職員が支援する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも利用可能となっている。届いた手紙は読んで差し上げたりしている。年賀状を毎年必ず出すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に皆さんが集まりやすい状態になっている。季節ごとの飾り付けに気づき喜ばれている様子あり、心地よく過ごされている。	施設内はバリアフリー環境が整っており、入居者の安全面に配慮した設計となっている。共有スペースには、ソファ・椅子等を設置しており、穏やかで落ち着いてくつろげる環境整備がなされている。また、カラオケ機を利用し、カラオケや体操を楽しむ等、入居者へ楽しみ事の提供を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間であっても一人や数人で自由に過ごせるスペースを設けている。冬は窓側で日向ぼっこをしている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心して暮らせるように馴染みの物を持って来ていただいて心地よく過ごせるよう工夫している。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具や写真等を自由に持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活が出来るよう配慮されている。また、好み・生活歴・身体状況に応じて、ベットや布団等の寝具の選択が出来ると共に、居室を自由自在にアレンジする事も可能となっており、生活スタイルに合わせた一人ひとりの個性が表れた居室となっている。各居室にエアコン・換気扇が設置され、適切な空調管理がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー設計で様々な利用者様にとって安全な環境となっている。居室、トイレには目印となる花やぬいぐるみ等を付け、できるだけ自立した生活を送れるように工夫している。		